

日本ジオパーク全国大会 男鹿半島、大潟ジオパークに参加して

内匠 五月枝
全国大会に参加して感じた事。今回の大会は地域の子供たちが、自然体で楽しくジオパークに参加している様子が見られ、今までにない試みに感心しました。

開会セレモニーでは司会を二人の女子高校生が見事に勤め上げ、中学生4人が地元の紹介をユーモアたっぷりに分かりやすく伝えていました。パネルディスプレイでは、昨年

日本ジオパークに仲間入りした下北定審査時に小学生が大活躍した様子をむつ市立吉生小学校の先生方から報告がありました。

「ゆざわコース」に参加しましたが、小学生が郷土芸能を披露してくださる、会場の後方でお母さん達が心配そうに見守っていました。無事終了した笑顔が印象的でした。

仲間は、海からジオパークの「海の分科会」は、崖からジオサイトを保全を考える「波で渡れない場所」は梯子を持参して渡してくれました。植物化石や、石炭層を見ることができ、屏風ヶ浦の火山灰層も年代とそれと興味がわくので、北の海岸は漂着物でいっぱいです。これらには波で行ったり来たりしているうちには、クプラスチマ



梯子で小川を渡る【安田海岸】

大きな財産だと感じました。郷土の文化や歴史等を学び、楽しんでいくことができる子供達がいる。地元の子供達に伝えることが、その文化や歴史を伝えることだと思います。大地の好も、私もう少しくらい頑張りなさいました。

新井野 芳恵
動物の巣にも影響を与え、この乗るも中止になるとか、保全と景観を守るという事は難しい問題で自然に任せるといふ意見もありました。屏風ヶ浦では保全は難しい問題ですが先送りしないでほしいです。

海の崖からジオサイトの保全を考える

鳥取砂丘では除草作業で

その後はバスで回ったツアーは寒風山の草原と夕焼けに心を癒され、翌日入道岬見学の後小舟に乗って奇岩をぬうように回ります。ゴジラ岩は以外に小さかったです。大会は北の大地を満喫できおもてなしを感じることができました。

147kの内、80k余りは車窓から日本海沿いに走り、カラフルなインテリアされた車内では人形芝居や三味線のイベントや展望室、カウンタ―とあり絶景がみられる場所では電車はゆっくりとスピードを落とし

五能線は「リゾー トしらかみ」として

乗車した時、共に

反省点、東京駅での乗換は少なくとも30分、できれば1時間くらい余裕を持って乗換するよう、今後は計画をしたいと思います。



来年はアポイ岳ジオパーク

満喫した大会でした。

藤身 隆雄
①、男鹿半島での全国大会へ行く途中、新日本橋で前の電車が「異音」を聞いたため止まってしまい、予定の秋田新幹線「こまち」に乗れなかった。

全国大会雑感

東京駅から降り、高速バスに乗り、茂木さんと私は別々

③、銚子から男鹿半島へ。飛行機、バスなど利用する交通機関も異なる。折角の機会に参加者が一緒に行動して、車中での話し合いを深めたり、来年は北海道の「アポイ」ジオパーク、参加者は一緒に行動して、心強いと思

日頃から常に周りの事をしつかり見、今何をなすべきかを考えることだと思ふ。3日間茂木さんと常々共に行動していたが本当にいい体験をさせていただきました。ありがとうございました。

に一人ずつ座席を占有、そこへ幼い子を連れられたお母さん、隣の相席へ、すかさず茂木さん「私後ろに行きますからどうぞお二人で」と。こういうことは、日頃から常に周りの事をしつかり見、今何をなすべきかを考えることだと思ふ。3日間茂木さんと常々共に行動していたが本当にいい体験をさせていただきました。ありがとうございました。